

平成 29 年度 公益財団法人山梨総合研究所 事業報告書
(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

1. 地域社会の健全で持続可能な発展を目的とした自主研究・自主事業の実施及び研究会・セミナー等開催の分野

(1) 「アジアフォーラム 21 研究会」の実施 (平成 11 年度から継続)

① 県内企業とアジア各国企業との連携について、産業界・県立大学などと共同研究を実施⇒ 6 回開催

平成 28 年度からセミナーをオープン化し、従来の研究会員以外にも少数であるが参加

② 海外視察の実施

実施日：平成 29 年 9 月 3 日～9 月 6 日

視察先：≪ 香港・中国 (深圳・東莞・広州) ≫ 山梨中央銀行香港駐在員事務所、港加賀電子 (深圳) 有限公司、大月精工 (東莞) 有限公司、広州必勇獅汽車部件有限公司ほか

目 的：世界有数の成長センターである珠江デルタ地域における政治・経済情勢、日系進出企業の活動状況等の情報収集

参加者：4 名

③ 忠北研究院との研究交流の実施 (通算 10 回目)

実施日：平成 29 年 11 月 24 日

場 所：韓国・忠清北道・仙愛 Vill (村) (日本・韓国にて隔年相互開催、今回は韓国)

テーマ：農村観光

内 容：

研究発表会：日本側 (山梨総研 1 名)、韓国側 (忠北研究院 1 名、仙愛 Vill (村) 事務長) から、それぞれ調査成果等を発表

現地視察：仙愛 Vill (村) (自然体験施設)

参加者：13 名 (研究発表会参加者)

(2) 「新世紀甲府城下町研究会」の実施 (平成 14 年度から継続)

甲府城や甲府市街地の再整備を踏まえ、江戸文化の復活とまちづくりについて各界有志による共同研究を実施⇒ 7 回開催 (うち、県外視察 1 回)

平成 29 年度は、「甲府城周辺地域活性化実施計画に関する提言書」を山梨県・甲府市に提出したほか、研究会設立 15 周年記念シンポジウム「蘇る小江戸・甲府文化全盛！ まちの記憶を未来に活かす」を開催

(3) 「環境・健康ビジネス研究会」の実施 (平成 18 年度から継続)

地域資源を活かした環境・健康産業の振興に関わる具体的な方策の検討を目的に、行政・企業・学界・NPO などの関係者による研究会を実施⇒7 回開催

テーマ (抜粋)：「地理空間情報を活用した地域づくり」、「超高齢化と人口減少下での

持続可能な国づくりと空き家の活用」、「リノベーションまちづくりの動向」など

(4) 地域資源を活用した公共交通の活性化施策についての調査研究

全国的に衰退が著しい一方で、観光立国を進めるわが国の二次交通網整備の中核となる地域公共交通について、峡東地域におけるワイナリーなど地域に根ざした地域資源に注目した活性化との関わりによる調査・研究を実施

(5) 健康寿命と農作業の関連についての調査研究

健康寿命の長さにおいて常に上位に位置する山梨県において、その要因として想定される地域性（社会的ネットワーク）や食事・喫煙等の生活習慣、特に農作業との関係性について、相関分析を通じた調査研究を実施

(6) 地域おこし協力隊の地元への貢献についての調査研究

地域にとって貴重な担い手として期待されながら任期満了とともに地域を離れていく例も増えている地域おこし協力隊員の現状、活動内容等を明らかにするとともに、地元への定着を図るための一助となるべく今後の活用方法等について、調査・研究を実施

(7) 自主研究発表会の開催

開催日：平成 29 年 5 月 24 日

場 所：山梨県防災新館 1 階 山梨県生涯学習推進センター交流室

発表テーマ（平成 28 年度実施自主研究）：

色彩をいかした街づくりについての考察

クラウドファンディングによる地域振興に関する調査研究

馬の多様な利活用による地域活性化等に関する調査研究

不登校児童生徒の現状と課題についての調査研究

少数者に対する社会のあり方についての調査研究

健康寿命と農作業の関連についての調査研究

講評者：鈴木嘉彦 山梨大学名誉教授

2. 自治体等から受託した公益目的事業の調査・研究事業の分野

(1) 山梨県、市町村等からの委託研究

総合計画、地方創生、産業政策、福祉・介護・子育て、教育、環境、まちづくり等、地域の諸課題に関する調査研究の実施を支援

(2) 農業団体、業界団体等からの委託研究

都市農村交流推進、経営計画策定に関する調査研究の実施を支援

(3) 人材育成研修の企画、実施

「山梨県新任職員研修」等の実施を支援

(4) 受託件数 32 件 (前年度比 11 件増)、受託金額 67,954 千円 (同 8,130 千円減) (税抜)

3. 人材育成の分野

(1) 理事長研修の実施

受託事業の質向上と研究員のレベルアップを図ることを目的に実施 (随時)

(2) 富士河口湖町との共同研修の実施

実施日：平成 29 年 9 月 20 日

参加者：富士河口湖町関係者 6 名、山梨総合研究所理事長他 11 名

テーマ：「富士河口湖町における観光施策」

(3) インターンシップの受け入れ、指導

山梨英和大学 1 名 計 1 名

4. 研究交流及び、情報の収集・提供の分野

(1) 研究交流の実施

① 忠北研究院との研究交流の実施⇒通算 10 回目

② 地方シンクタンク協議会・中部ブロック若手研究員研究発表会への参加

発表者として研究員 1 名参加 (ほか、専務理事参加)

発表テーマ：「山梨県の人口移動に関する研究」

③ 首都圏自治体シンクタンク連絡会議への参加

研究員 2 名参加

④ そのほか、山梨県、甲府商工会議所、民間調査機関などと研究・情報交流を実施

(2) 情報提供・資料収集の実施

① 各種団体からの依頼に対して講師を派遣⇒10 回

② 各種委員会への委員派遣、講師紹介など (多数)

③ ホームページにおいて自主研究・自主事業の成果を配信

④ 新聞等への寄稿、取材への対応

毎日新聞コラム欄への記事提供 26 回 (「21 世紀 Do Tank 発」)

NHK、山梨日日新聞等からの取材対応

⑤ 「ニュースレター」の発刊 (毎月)

⑥ メールマガジンの配信 (毎月)

(3) 機関紙等の発行

- ①「地域から未来が見える」の発刊（年1回）
- ②「事業実績一覧」の発刊（年1回）

5. 創立20周年記念事業の実施

(1) 記念フォーラムの開催

開催日：平成29年11月7日

場 所：甲府富士屋ホテル

テーマ：山梨発の地方創生に向けて ―山梨を誇り、山梨を語る―

内 容：

講 演 新藤久和 （山梨総合研究所 理事長）

「地域経済分析システム（RESAS）で垣間見る山梨の近未来」

講 演 平嶋彰英 氏（地方職員共済組合理事長・立教大学特任教授）

「私が見てきた山梨県の30年と今後」

シンポジウム ～ 山梨発の地方創生に向けて ～

コーディネーター 藤波 匠 氏（㈱日本総合研究所上席主任研究員）

コメンテーター 平嶋彰英 氏（地方職員共済組合理事長・立教大学特任教授）

進藤 中 氏（㈱山梨中央銀行代表取締役会長）

米山けい子氏（認定NPO法人フードバンク山梨理事長）

渡邊利夫 氏（拓殖大学学事顧問・山梨総合研究所顧問）

参加者 約250名

(2) 記念誌の発刊

出捐団体、県内支援団体、大学、企業、NPOの代表者など110名を超える方に、「山梨での地方創生のあり方」、「地域活性化への取り組み」、「山梨の将来」、「山梨総合研究所への期待」などについて寄稿していただき、取りまとめたものを冊子として発刊。ホームページにも、デジタルブックとして掲載

6. その他

(1) プライバシーマークの認定を取得

個人情報保護に対する関心の高まりに呼応し、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者等を認定するプライバシーマークを取得（平成29年5月）

(2) 山梨県立大学・拓殖大学と包括連携協定を締結

山梨地域の課題の解決及び地域の活性化並びに大学の教育・研究の充実を図り、地域

社会の発展に寄与することを目的として、山梨県立大学・拓殖大学（東京）と包括連携協定を締結（平成 29 年 11 月）